

## 日本語教員等の養成・研修課程別の目的・目標

## ＜本資料について＞

- (1) 調査3で取り寄せた日本語教員等の養成・研修課程のカリキュラム・シラバスから、目的・目標に当たると思われる部分を転載。  
 (2) 取り寄せたカリキュラム・シラバスの中に日本語教員等の養成・研修課程の目的・目標に当たると思われる記載が見られない場合は、各大学等機関、日振協認定機関、一般の施設・団体のホームページを確認し、目的・目標に当たると思われる部分を転載。

- ※1 カリキュラム・シラバス，ホームページのいずれにおいても確認できない場合は「-」としている。  
 ※2 「目的・目標等」の欄で使用している記号や数字は，調査3で取り寄せたカリキュラム・シラバス及び日本語教育機関等のホームページで使用されているものをそのまま転載したものである。  
 ※3 「分類」の欄は，「平成21年度日本語教育実態調査」において日本語教員等の養成・研修を実施していると回答した日本語教育機関等のうち，本調査研究協力者からの意見に基づき，一般的なカリキュラム・シラバスを持つものの例を「○」，特徴的なカリキュラム・シラバスを持つものの例を「△」で示している。

## 【大学等】

分類	養成・研修	大学・大学院	目的・目標等
○	養成	大学	コース1（日本語学科の学生対象） 日本語学科の学生を対象に，より高度で専門性の高い知識と技術を身に付けるコースです。
○	養成	大学	コース2（日本語学科以外の8学科の学生対象） 日本語学科以外の8学科の学生を対象に，それぞれの専攻語に根差した日本語教育に必要な，基礎的知識を身に付けるコースです。
○	養成	大学	日本語教員養成課程の概要 日本語教員養成課程は，2000年3月に文化庁国語課から刊行された「日本語教育のための教員養成について」に示された次の日本語教員としての資質および専門的能力を備えた人材を育成するための総合的教育内容です。そのため，言語学，日本語教育に関する専門科目を土台としたうえで，幅広い分野からカリキュラムを編成しています。 <b>●日本語教員としての資質</b> (ア) 言語教育者として必要とされる，学習者に対する実践的なコミュニケーション能力を有していること (イ) 日本語ばかりでなく，広く言語に対して深い関心と鋭い言語感覚を有していること (ウ) 国際的な活動を行う教育者として，豊かな国際的感覚と人間性を備えていること (エ) 日本語の専門家として，自らの職業の専門性とその意義についての自覚と情熱を有すること <b>●専門的能力</b> (ア) 言語に関する知識・能力 (イ) 日本語の教授に関する知識・能力 (ウ) その他，日本語教育の背景をなす事項についての知識・能力

○	養成	大学	日本語教員養成課程は、外国人等（日本語を母語としない人）に対する日本語教育の教員養成を目的とする課程で、全学科の学生が履修可能です。
△	養成	大学	-
△	養成	大学	この専門領域では、日本語という一言語を通じて世界の人々が相互に理解し、助け合い、共生できるようにするために日本語教育に関する基礎実践的な方法を学びます。開設授業科目は、発音、文法、文字などの日本語教育に関する基礎的科目と、日本語教授法、教材研究などの日本語教育の実践的方法に関する科目が主になりますが、外国人児童・生徒に対する日本語教育実習を横浜市内の小学校や本学留学生センター等で行います。異なる言語や文化を持つ21世紀の人間社会において相互に理解、扶助、共生する方法を探るのがこの専門領域の目標です。
△	養成	大学	<p>&lt;目的&gt; 本校が修了証を発行するもので、日本語非母語話者に対する日本語教育に携わる人材を育成すること。</p> <p>&lt;理念&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日本語教育の専門性と独自性を学問的に明確にすること</li> <li>2) 日本語教育の専門性において質の高い教員を養成すること</li> <li>3) 日本語教育現場では多言語・多文化接触が不可避であるため、教育者であるまえに一人の市民として豊かな国際感覚や人間性を備えている教員を育てること</li> </ol>
○△	養成	大学	<p>1. 教育目的</p> <p>日本語教育専攻プログラムは、日本語を通して多文化共生社会に貢献できる人材の育成を目的としています。</p> <p>日本から海外へ、海外から日本へと、人の行き来が増えるに連れ、異言語や異文化との接触場面が多くなっています。相互理解のベースはことばです。日本語を学びたい人の数も増え続けています。本専攻プログラムでは、多様化した日本語の学習目標に対応した手助けができるよう、日本語の仕組み、日本語の学習と教育、コミュニケーション能力、異文化理解などについて学びます。</p> <p>将来、国の内外で日本語教育及びその関連の仕事に携わりたいと思っている人、あるいは日本語や日本語教育を専門として研究したいと思っている人は、そのための確かな基盤となる知識と技能を修得することができます。また、国際的な機関で働きたいと考えている人にとっても、自らの言語・文化とともに他の言語・文化を理解するための力を養うことのできるプログラムです。</p>
○	養成	大学	<p>専門科目</p> <p>日本語教育コース 狙い・進路・カリキュラムの特徴等</p> <p>日本語教師を志望する学生を対象とします。従来行ってきた日本語教育の専門教育をさらに強化し、日本語教育の知識と経験を十分に身につけた学生を養成します。また国内・国外で、日本語教育の実習を行うこともできます。さらに専門的な学習を希望する学生には大学院等への進学を見据えた指導を行います。</p>

○	養成	大学	-
○	養成	大学	<p>1. 日本語教員養成コース          文学部（3学科共通）では、将来日本語教員を志望する者のために本学独自の資格として、日本語教員養成コースを設けています。          このコースでは、日本在住の外国人、海外帰国生、留学生、就学生及び海外での日本語学習希望者などに日本語教育をおこなうために必要な科目を設定し、その修得単位に応じて「1級」または「2級」として本学独自の資格認定を行います。</p>
○	養成	大学	<p>学びの体系          日本語学・日本語教育コース          日本語の歴史、日本語文法、国語教育や日本語教育の方法などについて学びます。また、日本語学習者が会話能力を養っていく構造を探ったり、日本語教育の実際に触れながら実践力も養います。ことばに興味のある人、国語教師・日本語教師を目指す人に向けたコースです。</p>
△	養成	大学	<p>日本語学科の概要（HPより）          日本語学科は「高いコミュニケーション能力」をそなえた「社会人」になるための学科です。          日本語教師（外国人に日本語を教える）、学校教員（中学・高校の国語・英語の教員）などを目指す。          航空・ホテル・ツーリズム・銀行・保険・金融・商社・販売業・製造業などで、接客・営業・事務などの仕事を目指す。          出版・広告など文字メディアでの仕事を目指す。          それぞれの志望や興味に合った学習の場を提供します。</p>
○	養成	大学	<p>●到達目標：日本語教育に必要な基礎を体系的に学習          ●概要：外国人に対する日本語教師として必要な最低限の知識や技能を、人間学科生ならばどの専修からでも学べるように設定した基礎プログラムです。日本人なら誰でも日本語が教えられるわけではなく、日本語に関する客観的な知識、学習者のレベルやニーズに応じて体系的に教えられる技能などが必要になります。海外での専門職を目指しながら現地で一時的に日本語教師を務めたり、国内外でボランティアで日本語教育を行ったりする可能性がある学生は、本プログラムの履修をお勧めします。ただし、本格的な日本語教師を目指す学生は、人間学科日本語日本文学専修に所属して、日本語教育（関連）科目45単位以上の履修、更に日本の文学や文化に関する幅広い知識の習得を目指すことをお勧めします。</p>

○	養成	大学	<p>教育・カリキュラム（HPより） 日本語専攻では、外国語学部が提供している25（留学生用の専攻語日本語を含む）の専攻語の中から1つを身につけ、その上で日本語・日本文化を客観的に捉えることを目標としています。最初の2年間は専攻語の授業を中心に、日本語専攻の基礎的な科目を学び、3、4年生では、日本語学・日本語教育学・日本文化学・言語学の領域にわたって、日本語を外国語のように観察し客観的に見る目を養えるよう指導しています。特に日本語教育に関しては、教育実習の目的を兼ねた海外派遣や交換留学の機会も設けています。</p> <p>言語社会専攻は、上記の教育理念に基づき、世界諸地域の言語とそれを基底とする文化について理論と実践の両面にわたり研究を行い、次のような意欲をもつ優秀な学生を求めています。</p> <p>特定地域の言語の専門的知識を身につけ、その言語あるいは言語圏の文化と社会に関する先端的研究を行う研究者をめざす 世界の諸地域の言語・文化に関する高度の教養を有し、国際舞台で活躍するのにふさわしい高度専門職業人をめざす 広域言語としての日本語と日本文化に関して、海外の教育研究専門機関と連携し留学生に対する大学レベルの教育を行う教育者をめざす</p>
△	養成	大学	<p>「日本語教育コース」（HPより） 日本語教師を目指す人のための専門的なコースです。プロ意識に裏打ちされた実践的な教授能力があり、現代日本語の音声と文法を客観的に分析し、研究のできる日本語教師の養成を目指しています。</p> <p>理論面では、日本語の音声、文字・表記、文法、日本語教育の教材、評価法などを、実践面では、いろいろな教授法、指導案の作成方法などを学びます。これらの知識を身につけた上で、日本国内外で教育実習をし、また、外国人留学生の書いた作文の誤用分析をします。そして、すべての知識、経験の集大成が卒業論文です。</p> <p>文学部の副専攻の日本語教育課程はプロの教師の育成を目指してはなりません。日本語教育に関する基本的な知識を身に付けることが目的です。</p>
△	養成	大学	-
△	養成	大学	-

△	養成	大学院	<p>(1) 研究教育の目的  比較文化専攻の目的は、世界各地域の言語、文学、思想など文化現象の比較研究を行うとともに、国際化社会に対処できる高度な専門知識と広い視野を備えた人材を育成することになる。この目的を達成するため、次の諸点を研究教育の基本方針としている。</p> <p>①広い視野に立って、個別専門分野の課題を捉えるための深い洞察力を養う。  ②個別専門分野に立脚しつつ、他分野との関連に重点を置いた研究教育を行う。  ③優れた国際感覚と先見性を培う為のコミュニケーション能力を養う。</p>
○△	養成	大学院	<p>日本語教育学原論を中心に置き、教育の素材となる日本語そのものを運用及び構造の二側面から追求する。また、様々な日本語教授法の背景をなす理論、日本語習得に関わる種々の要因を検討し、理論面、実践面から日本語教育の在り方を追求していく。</p>
○	養成	大学院	<p>専攻の紹介 (HPより)  理論を理解しているからこそ可能な教育があります。  日本語教育学専攻は、日本語教育の基礎としての日本語学と、日本語学の基礎としての言語学を重視し、言語理論に基づいた日本語研究と、日本語教育学の理論的展開を目的に学びます。</p>
○	養成	大学院	-
○	養成	大学院	<p>実践日本語教員養成プログラムについて  このプログラムは、日本語を母語としない者に対して、外国語としての日本語を教えられる日本語教員の養成を目的としている。</p>
○	養成	大学院	<p>アドミッション・ポリシー (HPより)  言語社会専攻は、世界の諸言語とそれを基底とする文化一般についての理論と実践にわたる教授・研究を通し、外国の言語や文化、社会に関する高度な専門的知識を有する研究者のみならず、国際舞台で活動するために必要な広い知識と高い教養そして外国に関する深い理解を有する有為な人材を養成することを教育理念としています。</p>
○	養成	大学院	-

○	養成	大学院	<p>大学院日本語教育研究科における人材養成・教育研究の目的</p> <p>近年の社会経済のグローバル化は、世界の文化、教育、科学技術、情報の交流をますます活発化させ、日本語を媒介とした交流も盛んに行われるようになりました。その結果、日本語学習者数は年々増加し、2006年の国際交流基金の調査では、290万人を超える人々が世界各地で日本語を学んでいると言われています。</p> <p>本研究科の人材養成の目的は、こうして拡大する国内外にける日本語教育の従事と・発展のために、日本語教育の専門家を養成することであり、理論と実践の力が総合的に身に付いた有能な人材を育成することに主眼があります。</p>
○	養成	大学院	<p>学則第7条(抄) 研究科に以下の通り専攻を置き、目的を定める。</p> <p>(1) 博士前期課程</p> <p>イ 言語応用専攻</p> <p>日本語教育学、英語教育学、言語情報工学、国際コミュニケーション・通訳の各専門分野において、自らの専門性を磨いて研究能力を高めるとともに、その専門性を十分に活かすことのできる実践的な知識とスキルを有する高度職業人の養成をめざす。</p>
○△	養成	大学院	<p>特色</p> <p>現在、日本が世界で果たすべき役割とその機関がますます大きくなる中であって、国内外での日本語教育の必要性和重要性が急速に高まっています。</p> <p>海外での日本語学習者に対する教育者の需要ばかりでなく、国内での留学生、外国人労働者及びその子弟、帰国子女等の「日本語を母語としない者に日本語を教育する」旨の日本語教育の必要性も急務となっています。</p> <p>本コースは日本語を世界の言語の一つとして位置づけ、日本語・日本文化に関する教育を担う専門家の養成を目的としています。</p>
○△	養成	大学院	<p>特色</p> <p>日本の文法構造のうち、動詞研究等の日本語学そのものの研究、或いは日本語と外国語との語彙等の対象研究、そしてそれらの研究を通して標準日本語の創成から言語政策に至るまでの応用実践的研究を対象とし、近い将来、我が国における日本語学・日本語教育学研究の中核的存在となりたいと考えています。</p>

○	養成	大学院	<p>教育理念と目標（HPより）</p> <p>人間性の本質に迫る手だてとしての言語学、教育を通してグローバル化に貢献する語学教育を大きな二本の柱として、新しい大学院教育を目指します。言語学領域では、文法理論や言語習得論（母語習得、第二言語習得）を学習し、日本語研究あるいは日本語と他言語との比較研究を通して、言語理論、言語習得理論に貢献する人材を養成します。日本語教育領域は、日本語教授法、日本語教育文法などの科目と共に、コミュニケーション教育の科目や国内外での就職を想定した英語・日本語運用能力向上のための科目群を含むカリキュラムとなっています。英語教育領域は、高度な英語教育者の養成と英語教員の再教育を目的とし、英語教授法、英語教育文法、コミュニケーション教育、英語運用能力向上を重視したカリキュラムを組んでいます。</p>
○	養成	大学院	<p>履修モデル</p> <p>（2）言語教育学コース 日本語教育学プログラム</p> <p>日本語教育学プログラムでは、日本語教員としての高度な専門性と、それを活かす実践的な力量の獲得が目標です。</p>
○	養成	大学院	<p>「専攻紹介」（HPより）</p> <p>本専攻の養成すべき人材像は、端的に言えば、「理論と実践のバランスのとれた言語教育者」です。言語教育者は、専門知識（理論）と専門技能（実践）の習得を必要とする専門職ですので、理論系の科目と実践系の科目をバランスよく配置し、一方に偏しない言語教育者の育成を目指します。</p> <p>日本語教育専修では、経験豊富な教員の指導の下、最も効果的な教授を可能とする実践的な日本語教師を養成します。</p>
○	研修	大学院	<p>目的</p> <p>海外の優れた外国人日本語教師を対象に、修士課程における組織的で体系的な教育指導により、日本語学・日本語教育学・日本文化などに関する知識と理解を深めさせ、各国の日本語教育における将来のリーダーたる人材として養成することを目的としています。</p>
○	研修	大学院	<p>目的</p> <p>日本語に熟達し、日本語教育において優れた研究能力と実践能力を持ち、かつ日本の社会・文化全般にわたって知識と理解力を備えた、指導的な外国人日本語教育の研究者・教師及び日本語教育行政の政策担当者などの養成を目的としています。</p>

○△	研修	大学院	<p>●養成する人材像 日本語教育専攻修士課程は、国内外を問わず現職で日本語教育に従事している人材のリカレント教育及びより高度な実践研究の能力を備えた日本語教員の養成等を目的として、教育研究を行います。</p>
----	----	-----	---



【日振協認定機関】

分類	養成・研修	420時間 以上・以下	目標・目的等
○△	養成	420時間以上	-
○	養成	420時間以上	-
○	養成	420時間以上	-
○△	養成	420時間以上	-
○	養成	420時間以上	-
○	養成	420時間以上	-
○△	養成	420時間以上	-
○△	養成	420時間以上	本校の日本語教師養成講座は専門性の高い日本語教師を養成し、国際社会に貢献できる人材を育成することを目的としています。
○△	養成	420時間以上	本科コース 「ひらがなから日常会話レベル」の日本語学習者を指導できることを目標とします。 専科コース 「長文読解、ニュース等の聴解、論文の書き方、スピーチの仕方等」を学ぶ学習者に教えるための実力を養成し、全レベルの学習者にコースデザインを行えるようになります。他に、在日外国人の環境、海外の教育事情、アジア近代史、日本語教師の心構えなど、あらゆる角度から日本語教育を捉えながら社会性の高い教員を目指します。
△	養成	420時間未満	-
△	養成	420時間以上	-
△	養成	420時間以上	-
○	養成	420時間未満	目的：1.（当該日本語教育機関の名称）の教師養成および発掘。 2. 日本語教師未体験者の導入講座。 3.（当該日本語教育機関の名称）の指導方法等に興味のある経験者。
△	養成	420時間以上	-
△	養成	420時間未満	-
△	養成	420時間未満	-

△	養成	420時間未満	<p>●本科 このコースは現場ですぐに役立つ知識，技術を習得し，日本語教師として活躍していただけるようデザインされています。</p> <p>●実習本科 本科（理論講座，実技講座A，B）で，教壇に立つための知識，技能を身につけ，実習科では，外国人学習者対象に教育実習を行い，実践経験を積みます。</p>
	研修	420時間未満	-
△	研修	420時間未満	<p>ゴール：1. 自分の現場の学習目標（到達目標）の見える化と課題の明確化 2. 課題遂行型の学習目標の評価方法を知る 3. 課題遂行型の評価（テスト）の作成</p>

【一般の施設・団体】

分類	養成・研修	初心者向け・ 経験者向け	目標・目的等
○	養成	初心者	この講座は、地域に暮らす外国人の日本語学習をサポートする「日本語ボランティア」としての基本的な知識や心構えなどを学んでいただくものです。
○	養成	初心者	-
△	養成	初心者	-
△	養成	初心者	日本語学習で、学習者（外国人）へどのように指導すればよいか講習を受けて、毎週開催しているラウンジの日本語学習で先生になってくれる人材を増やす。
△	養成	初心者	-
○	研修	経験者	福島県内には現在約1万3千人の外国籍の方々が暮らしています。近年、定住化が進んでいることもあり、初級日本語を終えて、日本語にもっと深入りしてみたい、ブラッシュアップしてみたいと思っている学習者は少なくありません。しかし、中級日本語は奥が深く、教える側もどう教えたらいいのか戸惑うこともあるのではないのでしょうか？今回の講座は、そんなあなたの疑問や悩みの一助となるはず。是非ご参加ください。
○	研修	経験者	県内の外国人と日本語で交流するボランティアのためのスキルアップ講座を開催します。
○	研修	経験者	（背景および課題）日本に暮らす外国人にとって、日々の生活に限らず求職活動にも日本語の能力が必要不可欠となってきた。しかし、県内で外国人の日本語学習の受け皿となっているのはボランティアによる日本語教室であるため、多様化している外国人住民のニーズにあった日本語指導を行うには、ボランティア個人のスキルアップを図る研修が必要である。 （研修内容）目標達成のために必要となる準備や授業の仕方などについて実践を通して学ぶ（シラバス・カリキュラムを知り教案を作る／教材・教具を生かした授業／模擬授業とフィードバック）
○	研修	経験者	-

○	研修	経験者	<p>Aコース</p> <p>1) 到達目標</p> <p>①日本語の運用能力と日本語を教えるために必要な日本語の分析力の向上を目指します。ACTFL-OPIと日本語能力模擬試験で伸びを測ります。</p> <p>②教授法に関する基礎的な知識を整理し、教授技術の向上を目指します。とくに、初級の日本語の教授法を身につけることと、技能別の日本語を教えるために必要な知識を学ぶことを目標とします。</p> <p>③日本社会や日本人との接触を通して、日本事情に関する全般的な知識を増やし、日本理解を深めます。</p>
○	研修	経験者	<p>Bコース</p> <p>1) 到達目標</p> <p>①より豊かな授業のために情報収集とコミュニケーションができる日本語の運用力の育成と日本語を教えるために必要な日本語の分析力の向上を目指します。ACTFL-OPIと日本語能力模擬試験で伸びを測ります。</p> <p>②教授法に関する基礎的な知識の整理と、教授技術の向上を目指します。特に初・中級の日本語のコミュニケーション型教授法を学ぶこと、各自の教育現場での問題点を理論や他の人の意見を取り入れつつ、解決できるようになることを目指します。</p> <p>③日本人や現在の日本社会との接触を通して、日本事情に関する全般的な知識を増やし、日本理解を深めます。</p>
○	研修	経験者	<p>2. 研修目標と研修の流れ</p> <p>日本語研修の基本方針である「日本語運用能力の向上、教授法の知識拡充、現代社会に重点を置いた日本事情の知識拡充」を共通目標とした上で、中国の大学教師の特性及び中国の日本語教育の成熟度から見て、教授法分野に重点を置き、以下の目標を設定する。</p> <p>(1) 学習・教授理論を学び、自分の言語学習慣を見直し、授業改善の示唆を得る。</p> <p>(2) 教授法の中の特定分野（授業研究、言語研究、文化・社会研究）について、基礎知識と技能を学び、教師としての専門性を高める。</p> <p>(3) 全科目を日本語で受講し議論することによって、日本語運用力の向上を図る。</p>
△	研修	経験者	<p>児童生徒の指導に経験豊かな教員経験者を対象に、日本語指導に必要な知識を習得してもらうことで、地域において日本語学習支援基金事業を活用した日本語教室の設立・運営を担う人材の育成を目的とする。</p>
△	研修	経験者	<p>外国人児童生徒向けの日本語ボランティアの養成を目的とし、講座修了生が、地域で外国人児童生徒を対象にした日本語教室に積極的な参画を行うことで、日本語教室の増加・指導内容のさらなる充実につなげる。</p>

○	研修	経験者	この研修では日本語学習者を支える様々な機関と関係者、そしてその役割を整理し、市町を越えた広域的相互ネットワークの可能性と日本語支援の充実を考えます。
△	研修	経験者	-
△	研修	経験者	平成17～21年度開催した当協会日本語ボランティア養成講座修了者、教職経験者等を対象に、日本語学習支援が必要な外国人児童生徒等の在籍する学校等へ日本語学習支援者として派遣等するボランティアを養成する研修会を実施する。
△	研修	経験者	当協会の子ども日本語学習サポーター登録者の県内小・中学校での日本語学習支援活動の実践力の向上と、サポーター同士の情報交換を図るため、スキルアップ研修会を実施する。
△	研修	経験者	-
○	養・研	初・経	-
○	養・研	初・経	-
○	養・研	初・経	この講座では、地域に住む外国人へ日本語を教えるときに必要な教材や教え方についての基礎を学びます。
○	養・研	初・経	-
△	養・研	初・経	-
△	養・研	初・経	外国人の子どもの支援に関心のある方を対象に、外国につながる子どもたちの日本語支援について5回コースで学びます。